

資源評価業務の円滑化を目的とした 組版ソフト導入に関する提案書

資源海洋部 浮魚資源グループ 林 晃

2017 年 3 月 22 日

1 はじめに

本機構は、水産庁委託事業「我が国周辺水域の漁業資源評価」業務に多くの時間的・人的コストを費やしている。これらのコストを削減して業務の円滑化を図ることは、他業務への努力量配分の増加を可能にするだけでなく、本事業の成果物である資源評価報告書の質的な改善にもつながる。本提案書の目的は、資源評価業務の時間的・人的コスト増大の要因を抽出し、それに対する技術的な改善策を示すことである。

2 現状分析

2.1 主要な問題点

編集担当者および各魚種担当の業務には、以下のようにコストの重複および正のフィードバックが認められる（図 1）。

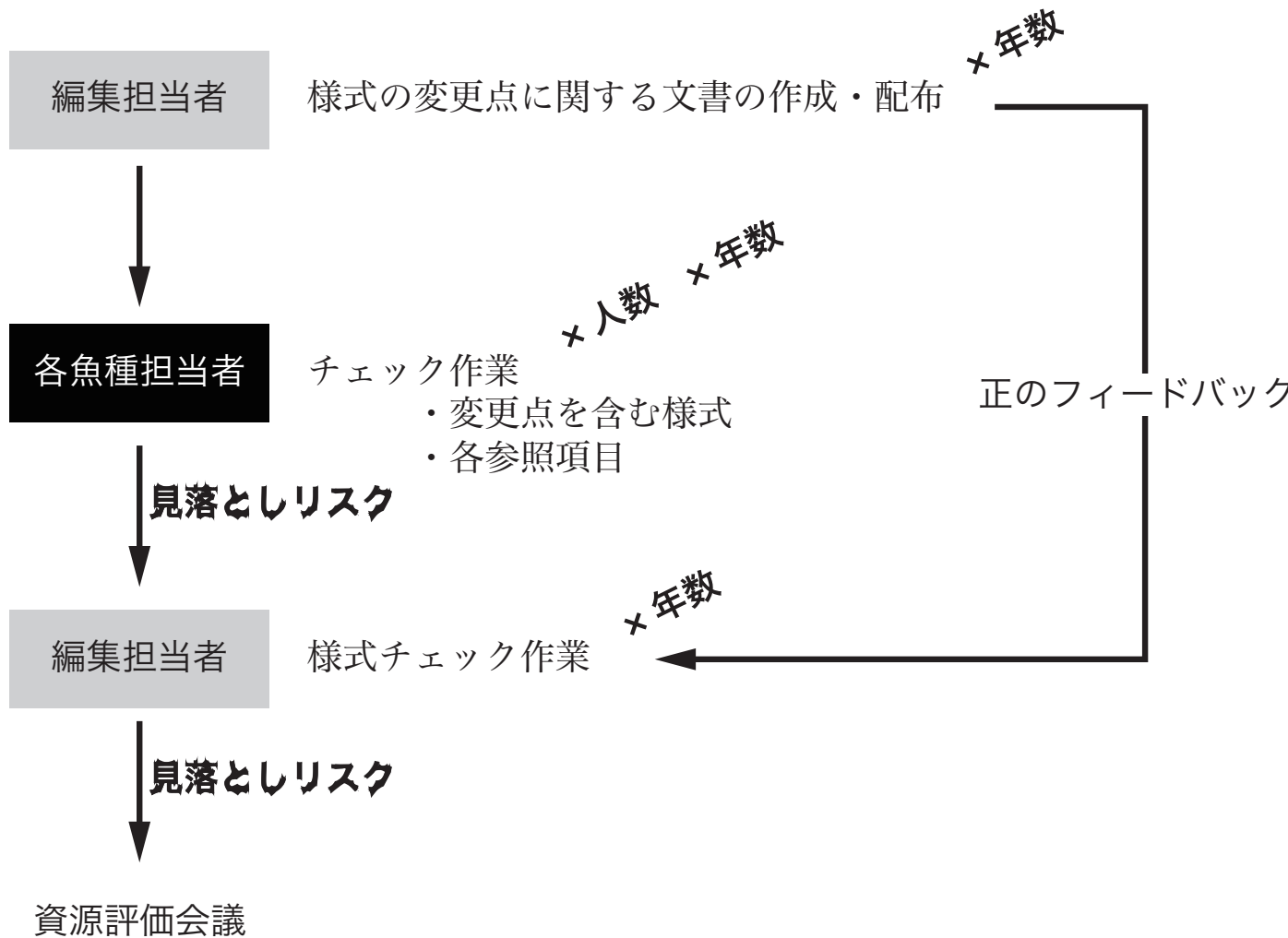


図1 イメージイメージイメージイメージイメージイメージ

2.1.1 編集担当者

様式の変更が決定した場合、昨年度からの変更点を説明するためだけに文書を作成・配布する必要がある。

2.1.2 各魚種担当者

文章のわかりやすさ等だけでなく、

- 昨年からの変更点を踏まえた文書全体の様式
- 図表番号、引用文献、年度などの参照項目

に留意しながら文書を作成する必要がある。

各魚種担当が上記業務に並行して従事するため、本コストには各魚種担当の人数が乗ぜられる。

2.1.3 編集担当者

提出された文書が様式に従っているかをチェックする必要がある（それでも見落とす）。
両者の精神的負担も大きい

2.2 付随するその他の問題点

- レイアウトが汚い
- 図表キャプションが汚い
- 図表の位置などに再現性をもたせようとすると手間がかかる

2.2.1 まとめ

以上のような時間的・精神的負担にも関わらず、未だミスが存在するのが現状である。
会議の場で挙がるケアレスミスについての指摘は、会議参加者全員の貴重な議論の時間をも奪っている。

レイアウト修正に費やした時間と労力は、毎年度、なかったことになる。

3 上記の問題の原因

資源評価が Microsoft 社 Word に高度に依存している点

4 解決策

T_EX の導入を提案する。

4.1 T_EX とは？

スタンフォード大の Donald Ervin Knuth 博士が 1976 年に開発した組版ソフト。

～中略～

キーワードは美しさと再現性。

4.2 期待されるメリット

主要なもの

- フォント、段落、図表の配置などの様式を一括管理でき、様式の変更も手軽である。
- コメントアウト機能が付いている (特記すべき注意事項を該当箇所を書ける)
- 年、用語などを一括定義できる
- 他のプログラムとのシームレスな連結

付随的なもの

- 浮いた時間を要対策事項への対処に充てることができ、結果的に資源評価の質的向上に繋がる。
- 可読性に優れる
- OS に依存しない

4.3 想定されるデメリット

精神的な初期投資は大きいかもしれない。

5 留意事項

情報通信白書を発行している総務省にスクリプトがあるのではないか